

2004 年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2005 年 1 月 29 日

I 概要

実践団体・担当者名	東山学区連絡協議会 (担当者：浅井隆)	
連絡先	電話 090-2340-6672	
プランタイトル	「わくわく！ドキドキ！サバイバル体験！」	
目的	東海地震などへの警戒が高まる中、個人や家族、地域でできる対策を講じておくことが急務な課題となっています。しかし、各種防災講演会や防災訓練、広報誌やマスコミ情報のいずれを見ても、「大人の視点」が多く、「子どもの視点」に立った防災対策が必要です。そこで、地域に住む子どもたちが、緊急時に対する適切な対処方法を学ぶ機会を企画しました。また、防災というととかく固い「訓練」というイメージがありますが、子どもたちが自ら考えたり、行動する参加型に内容を特化して、楽しく、そして災害に負けない、たくましい地域の担い手を、地域をあげて育てることを目的とします。	
プランの概略	一泊二日の日程の中で、「参加型」を意識した以下のような演習などを実施した。 一日目 14:00～16:00 非常持ち出し袋を考えよう！ 16:00～19:00 炊き出し体験・ほのぼのあかり製作 19:30～20:30 東山学区の歴史と地震の話（地元の長老によるお話など） 二日目 7:00～8:00 「防災一座」の協力による朝食 8:30～10:20 自分の家の中は安全か？（PTA による寸劇など） 10:30～11:30 ふりかえりとまとめ	
プランの対象と参加人数	小学生、小学校教員、町内会、消防団、PTA、NPO 法人、ボランティア団体 参加者：総計 136 名 小学生 51 名、保護者 1 名、東山学区 70 名、小学校 4 名、レスキューストックヤード 10 名	
実施日時	2004 年 8 月 3 日（火）～4 日（水）	
主な実施場所	名古屋市立東山小学校体育館・グラウンド	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	NPO 法人レスキューストックヤード
	連携したきっかけ・理由	当該団体が当学区に事務所を置いたことから、2002 年より東山学区と合同で 3 回の地域防災プランを実施している。
	連携団体へのアプローチ方法	以前より面識があった。
	連携団体との打合せ回数	2 時間×9 回
	連携団体との役割分担	本事業の企画・運営について相談した。

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	3 名
	外部スタッフの総人数	2 名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 杉浦尚久（東山学区連絡協議会会長） 企画 浅井 隆（東山消防団団長） 栗田暢之（NPO 法人レスキューストックヤード代表 理事） 渉外 渡辺精三（東山学区連絡協議会副会長） 制作 竹澤邦泰（名古屋大学震災ガーディアンズ代表）
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2003 年 11 月 ～ 2004 年 1 月
	立案時間	2 時間× 4 回 時間× 回
	上記のうち打合せ回数	2 回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	○ 子どもを一泊二日預かるというリスクや社会的責任に対して保護者を納得させるための 手段を思案したこと。 ○ 子どもは夏休みでも塾やら学校行事が目白押しで、日程調整に小学校側の理解を得るため に配慮した。	
プラン立案で 苦労した点	○ 既存の防災訓練を超えて、「参加したい」と思わせる内容について思案したこと。 ○ 子どもの集中できる時間は長くて 2 時間。次々に興味を持たせるためのプログラムのあり 方について思案したこと。	

Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	3 名
	外部スタッフの総人数	2 名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 杉浦尚久（東山学区連絡協議会会長） 企画 浅井 隆（東山消防団団長） 栗田暢之（NPO 法人レスキューストックヤード代表 理事） 渉外 渡辺精三（東山学区連絡協議会副会長） 制作 竹澤邦泰（名古屋大学震災ガーディアンズ代表）

準備に要した日 数・時間	準備期間	2004 年 2 月 ～ 2004 年 8 月
	準備総時間	2 時間× 10 回 時間× 回
	上記の内打合せ回数	7 回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	名古屋市立東山小学校
	どのように働きかけたか	東山学区連絡協議会は PTA 活動などで普段から連携して活動しているの、とりわけ働きかけが必要ではない。
	結果	提案に対して誠意を持って対応してくれた。
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	東山消防団、民生児童委員、各町内会
	どのように働きかけたか	東山学区連絡協議会は普段から多くの自治会組織と連携して活動しているの、とりわけ働きかけが必要ではない。
	結果	提案に対して誠意を持って対応してくれた。
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA 組織名	東山小学校 PTA
	どのように働きかけたか	東山学区連絡協議会は普段から連携して活動しているの、とりわけ働きかけが必要ではない。
	結果	提案に対して誠意を持って対応してくれた。
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	○ 機材 ・ プロジェクター、パソコン（レスキューストックヤードから無償借用） ○ 教材 ・ ぶるる君（名古屋大学福和研究室から無償借用）

	入手先・入手方法	○ 機材 ・ プロジェクター、パソコン（レスキューストックヤードから無償借用） ○ 教材 ・ ぶるる君（名古屋大学福和研究室から無償借用）
	機材・教材選定の理由（なぜこの機材・教材を選んだのか）	○ 機材 阪神・淡路大震災など、実際の揺れやその後の状況を映像で見せる効果を考えた。 ○ 教材 防災の最優先課題である耐震化について、子どもでもわかりやすい教材として選定した。
参加者の募集	募集方法	小学校各クラスと担任から調節チラシを配布していただいた。
	募集期間	2004 年 6 月 1 日 ～ 6 月 30 日
	参加予想人数	100 名
	実際の参加人数	51 名
	募集方法の成功点	小学校の理解が得られたため、保護者や小学生が安心して応募された点。
	募集方法の失敗点	小学校にまかせっきりだったことが、当初参加者予測を下回った点。あわてて各町内会で再募集をかけたが、あまり参加者は伸びなかった。夏休みの計画は各家庭それぞれが楽しみにしているので、よほどのことがない限りその計画を覆して参加することはない。
準備で苦労した点・工夫した点		○ 地元長老による学区の歴史のお話を、子どもたちにもわかりやすく写真などを多用してパワーポイントに仕上げるのに多くの時間を要した。 ○ 宿泊をかねて子どもを預かることに対して、既往症やアレルギーなど個別の対応が求められた。また、実施当日もけがや病気などに相当の注意を払った。

Ⅳ タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2003 11月	○ 連携団体へのコンタクト ○ 原案作成		
12月	○ 12/20 第1回打ち合わせ 「企画内容について」		
2004 1月	○ 1/23 第2回打ち合わせ 「申請書の確認」		
2月		○ 実施要綱案の作成	
3月		○ 3/17 第1回打ち合わせ 「実施要綱の確定など」 ○ 3/28 ワークショップ 「実施概要の発表」	
4月		○ 実施計画書案・役割分担案の作成、その他	
5月		○ 5/18 第2回打ち合わせ 「実施計画書・役割分担の確定、参加者 募集要項、チラシの作成など」	
6月		○ 6/17 第3回打ち合わせ 「内容の検討、当日の準備品手配など」	
7月		○ 7/8 第4回打ち合わせ 「当日の内容詳細打ち合わせなど」 ○ 7/15 第5回打ち合わせ 「当日の内容詳細打ち合わせなど」 ○ 7/23 第6回打ち合わせ 「当日の内容詳細打ち合わせなど」	
8月		○ 8/2 第7回打ち合わせ 「最終確認」	○ 8/3～4 開催
9月			○ 報告書作成
10月			○ 「中間報告会」
11月			○ アンケート集計
12月			○ 12/12 反省会開催
2005 1月			○ 総まとめ

V実践の詳細 【B. イベント】（イベント当日の準備から片付けまでを時系列をおって記入して下さい。）

時間	場所	活動内容	指導者 講師等	使用機材・ 教材等	留意点	参加者の反応・声	苦労した点・工夫した点	スタッフ（団体内・外部）の人数・役割
10：00	東山小学 校体育館	挨拶、概要の説明 資機材の搬入、椅子だし、受付設置など	東山学区連絡 協議会・NPO 法人レスキュー ストックヤ ード		事前にしっかりした計画が立 てられ、地域住民も多数参加 していただけたので、準備は 極めてスムーズに実施でき た。		参加者には十分な水分補給が必要 なので、お茶をつくったが、夏場な ので冷ますのに意外と時間を要し た。	当日スタッフ 団体内スタッフ 8名 外部スタッフ ・小学校教諭 4名 ・レスキューストックヤード 10名
13：00 13：30		受付 ガイダンス・スタッフ紹介 ・司会進行・栗田（3分） ・主催者挨拶・杉浦会長（5分） ・ご挨拶・学校長（5分） ・グループリーダー等紹介（10分） ・注意事項（7分）						
14：00		非常持ち出し袋を考えよう！ 小学生といえども、家族の一員として 「非常持ち出し袋」を準備しておくこと は必要であります。しかしその中身につ いては大人用の一般的なものではなく、 年齢と個人の特質・嗜好にあわせて柔軟 に考えたいものであります。そこで、今 回の避難所体験で必要と思われるもの をグループで品評しあい、グループで理 想的な「非常持ち出し袋」の中身を考え ます。						
16：00		炊き出し体験 6グループを以下の役割に分担し、150 食分を作ります。 ハイゼックス班はハイゼックスという 特殊ビニール袋に米と水をいれ、沸騰し た湯で約20分茹でるとごはんになりま す。火をおこす作業からごはんにし、配 膳するまでの過程を体験します。一袋で 1.5人分なので、90食分の60袋を完 成させます。 アルファ米は湯を入れるだけで、火 をおこし、湯を注ぎ、ごはんになったも のを配膳する一連の体験をします。一袋 で1人分なので、60食分の60袋を完 成させます。 みそ汁班は、火をおこす作業から2グル ープで異なる具を用い 75 食分ずつ作 り、配膳する過程を体験します。 高齢者お迎え班は、上記 4 班の火をおこ す作業を手伝った後、あらかじめ参加同 意を得た高齢者宅までお迎えに上がり、 配膳まで体験します。	各自持参の非常持ち出し袋 模造紙・マジック・ポストイット	各グループの島に新聞紙で養生 した上に「模造紙」を広げ、 マジックでリュックの絵を描 きます。絵を書く人は誰でも かまいません。 持ってきたものを順番に披露 しあい、ポストイットにその 名前を記入し、模造紙のリュ ックに加えていきます。 全部出し終えたら、足りない ものを考えながら、あるいは それが持てる重さなのかなど を話し合い、グループとして 理想の中身を完成させます。 グループごとに発表していた できます。	家の非常持ち出し袋を見直すいい機会 となった。 非常持ち出し袋にあんなにたくさんい るものがあるとは知らなかった。	準備をしておくこと自体が必要だ という概念の上に、その中身を精査 することが重要です。小学生が持っ てきたものに対して、決して批判的 にならないように注意した。		
		炊き出し体験 6グループを以下の役割に分担し、150 食分を作ります。 ハイゼックス班はハイゼックスという 特殊ビニール袋に米と水をいれ、沸騰し た湯で約20分茹でるとごはんになりま す。火をおこす作業からごはんにし、配 膳するまでの過程を体験します。一袋で 1.5人分なので、90食分の60袋を完 成させます。 アルファ米は湯を入れるだけで、火 をおこし、湯を注ぎ、ごはんになったも のを配膳する一連の体験をします。一袋 で1人分なので、60食分の60袋を完 成させます。 みそ汁班は、火をおこす作業から2グル ープで異なる具を用い 75 食分ずつ作 り、配膳する過程を体験します。 高齢者お迎え班は、上記 4 班の火をおこ す作業を手伝った後、あらかじめ参加同 意を得た高齢者宅までお迎えに上がり、 配膳まで体験します。	炊き出し用資機材一式 食材一式 非常食、その他	それぞれの班の協力で炊き出 しを完成させ、ブルーシート でグループ毎に島を作った上 で着席し、一斉に「いただき ます」をして全員同じものを 食します。 片付けも全員で行い、ごみの 分別なども徹底して実施しま す。	ごはんをみんなで作って食べるのが楽し かった。 夕食で味噌汁を作って楽しかった。味見 をしたらおいしかった。 量が少なく、もっと食べたいなと思っ た。	ライフラインが機能しない場合でも、自分 たちで火をおこし、仲間と 協力しながら炊き出しを行う実体 験です。おのやのこぎり、包丁など の扱いには大人の智恵を伝授し十分 留意をしながらも、できるだけ子 どもたちだけで食事をつくったと いう達成感を養うことをねらいと します。		

19 : 30		ほのぼのあかり班は、上記 4 班の火をおこす作業や缶詰の開封・移し替え・洗浄を行った後、夜間のあかりのためのほのぼのあかりを 30 個製作します。		パソコン（パワーポイント）、プロジェクター		地震のことや歴史のことでちょっと話が長かったけど、とてもびっくりした。東山の歴史も驚くことばかりだった。地震についていろんなことが学べて、いろんなことをしないといけないと思った。	子どもが飽きないように、できるだけ写真や映像を多用した。	
20 : 30		東山学区の歴史と地震の話 全体で加藤幹雄さんのお話を聞いた後、学区の役員がグループごとに張り付き、地域の歴史（自然や建造物の変化）などを語りあう。 地域に点在する暗渠や危険箇所、社会資源などの写真を取り上げながら、地震の概略を全体に説明する。		ほのぼのあかり（小学生製作）	トイレへの導線の確保 女子はステージの上 各自持参のお茶は捨てる	夜のトイレはちょっとこわかった。友達と怖い話をしていました。ぜんぜん寝れなくて、1 時までみんなでいろいろな話をしすぎて楽しかった。	火の元には特に注意を促した。 消灯後もしばらくは興奮してなかなか静かに寝るといった状況ではなかった。	
翌日 6 : 00	グラウンド	起床 ラジオ体操		ラジカセ、テープ	グループごとに健康チェック 体操の先生に模範演技をお願いした。		起きれない子は一人もいなかった。むしろ起床直後から、元気いっぱい走り回っていて、スタッフの方がだらしなかった。	
7 : 00	中庭	朝食 各グループにかんばん・ジャム・ピーナッツバター、コンソメスープを配布（コンソメ調理…浅井氏）		かんばん、スープ		かんばんは意外とおいしかった。 かんばんはまずかった。	防災一座が写真資料を見せながら各グループに「いかにかんばんがおいしいか」を説明していただいた。	
8 : 30	体育館	自分の家の中は安全か？ 各自自宅の見取り図を書き、家具や電化製品の配置、就寝している部屋の様子をグループで出し合い、どこが危険でどんな対策が必要か。また、地震がきたらどうすればいいかなどを話し合う。 PTA による家具転倒防止をテーマとした寸劇 耐震体験装置「ぶるる君」の実験		方眼紙、文具 ぶるる君 ダンボール、笛（寸劇）	地震対策の中で最も優先順位が高いのは家の耐震であります。人がなぜ死んだかを考えた時このポイントがすれないように、ぶるる君などの教材でその概念を伝えます。また、小学生にもできる対策として室内の安全対策を、PTA の寸劇や実際の寝室の家具・電化製品などの配置を考えることで、災害に強い日常生活に心がけていただくことをねらいとします。	ぶるる君という機械で実験をした時、というふうにすれば家が崩れないかを習いました。 地震は対策をすればぜんぜん怖くない。地震があっても近所の人と協力をすれば助かる。 大きなものが崩れても、笛を持っていれば助けを呼べる。	子どもたちに恐怖感だけを与えるのではなく、また家の耐震化など、大人しかできないと思わせることのないように、劇や実験道具を用いてできるだけわかりやすく表現した。	
10 : 30		ふりかえり 全員に「ふりかえりシート」を配布・記入（15 分） 各グループで話し合い、「今日からできる地震対策」を 1 つ選ぶ（25 分） グループごとに発表（20 分）		ふりかえりシート 模造紙、文具		笛を用意しておこう 地域の人と仲良くする～挨拶からはじめよう 枕元に笛とスリッパを用意する 非常食、かんばんを用意する 整理整頓をして逃げ道を作ろう	子どもたちが 2 日間を通して感じた素直な意見を聞きたい。スタッフが誘導的な発言をしないよう配慮した。	
11 : 30		片付け 解散（12 : 00）		掃除道具				

VI実践後

参加者への アンケート結果	○ 最初はお母さんに「行きなさい」といわれて、なんとなくいやだったけど、行ってみると楽しくて、またこういうのがあったら、行ってみたい。 ○ 今までは地震などは来ないだろうと思っていて、何も準備していなかったけど、地震や避難のことを聞いて、家にも危ないところがあるから気をつけようと思った。 ○ 昔の話を教えてもらったとき、日本は昔と今では全然違って、いろいろわかった。 ○ ごはんをみんなで作って食べるのが楽しかった。夜ちょっとこわかったけど、いい体験ができた。発表もたくさんできてうれしかった。 ※ その他多くの意見をいただきました（別紙参照）	
成果として 得たこと	○ 災害前の地震対策についての網羅的な学習の場となった。 ○ いわゆる講義形式ではなく、できるだけ体験できる時間帯を設定したことで、どのプログラムも子どもたちが生き生きとしていた。 ○ 2日目の最終的な発表を「地域の人と仲良くする」とした班がでるなど、単なる防災教育にとどまらない成果が得られた。	
成果物	（学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。） 実施要綱、参加者募集チラシ、当日配布物、東山学区の歴史（パワーポイント）、報告書、掲載記事、参加者アンケート	
広報方法	広報した先	名古屋近郊全マスコミ
	広報の方法	1週間前に FAX を流した。
	取材にきたマスコミ	毎日新聞、中日新聞、千種ホームニュース、NHK 名古屋放送局
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	8月3日 NHK 名古屋夕方のニュースで放映 8月4日 毎日新聞・中日新聞に掲載 8月21日 千種ホームニュースに掲載
	成功点	○ 愛知県は防災に関してマスコミも関心が高いので 4 社に取材いただいた。
	失敗点	○ 民放各社にも放映して欲しかった。
全体の感想と 反省・課題	○ 当初予定していた参加者の半数しか参加がなかった。「参加してみたい」と思わせる更なる工夫が必要であった。 ○ 参加者アンケートからもこの企画がおおむね盛況であり、成功であったと思うが、この成果が普段の学校教育の現場に連動させることができるかどうかを議論していきたい。 ○ 地域住民も子どもの数以上にご参加いただき、東山学区の連携の深さを改めて感じた。しかし、子どもとの交流は必ずしもうまくいったとはいえず、課題を残した。また、大人のためのプログラムも設定し、ともに学ぶ環境を作り出す工夫が必要であった。	
今後の予定	来年度以降の進め方	○ 子どももプランニングから参加させ、小規模でも継続し続けていきたいと考えている。具体的には未定である。
	是非実施してみたい 取り組み	○ 運動会に防災を意識した種目（バケツリレーなど）を設定 ○ 子ども防災マップ作り（わがまち探検）